

地域で生活する障害者を応援する  
「からしだね館」の旬な情報をお届けする機関誌

VOL.51

2019

12

# からしだね通信

## 目次

### 特集

ボランティア活動を通して  
被災地の現場から見えること

～ 武山世里子・坂岡恵～

2018年度決算報告

からしだねワークス & センターから

## お世話になりました

理事長 坂岡隆司

アフガニスタンで活動していたベシヤワール会の中村哲さんが銃弾に倒れました。ショックで、残念でなりません。武器によっては決して平和は来ない。家族と一緒に暮らせること、三度のご飯が食べられること、それを支援することこそ平和の基礎だ。これが中村さんの主眼でした。自衛隊の海外派遣について国会に呼ばれた時、「百害あつて一利なし」「有害無益」だと、中村さんは訴えたのですが、現実はそのとおりではありませんでした。それでも、困難の中を地を這うようにして生きる人々を目の前にして、中村さんはその場を離れることをせず（離れることが出来ず）、そしてついに恐れていたことが起きてしまいました。

ご遺体を迎えに行ったご家族の姿が放映されていました。「こんなにアフガニスタンの皆さまに厚意を寄せていただいて、父も喜んでいと思います。お世話になりました。」娘さんが頭を下げながら、静かにおっしゃったことがとても心に残りました。とんでもない、お世話になったのはこちらの方です！と、どれほど多くの人々が思ったことでしょう。最も身近だったご家族のことばは、そのまま中村哲さんご本人のことばのようにも聞こえました。30年以上にわたって、あれだけの活動続けるには、ご家族の大きな犠牲と支えがあったはずで、ことばにならない重い時間の最後のひとことが、「お世話になりました」という素朴なご挨拶だったことが、私にはとても身に沁みました。そんなご家族の「文化」が中村さんを送り出していたのかもしれない。有名な聖書のことばを思い出します。

「二粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一粒のままで。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」（ヨハネ12…24）

皆様にクリスマスの恵みが豊かにありますように。  
幸いな新年をお迎えください。

ここ数年、各地で地震や台風による災害が相次いでいます。ミッションからしだねからも職員が被災地におもむき、現地でボランティア活動に参加しています。そこで、現場に立って感じたことを自由に話してもらい、これから私達にできることを考えたいと思います。

## 「行かなあかんような気がした」 被災地ボランティア… そして「祈り」

**坂岡** 武山さんは、去年の西日本豪雨災害の後、町が水に浸かってしまった岡山県の真備町に、休みのたびに行っていましたね。あれは、どういう気持ちからだったのですか？

**武山** 「行きたい」というより「行かなあかんような気がする」という気持ちでした。私はそれまで一度も、災害ボランティアに参加したと思ったことがなかったのですが、昨年は「行かなあかん」と思いました。なぜなのか自分でもわかりません。「行きなさい」と突き動かされるようなものがありました。

**坂岡** 真備町では、どんなことをしたのですか？

**武山** 水に浸かった家の泥のかき出しや、洗浄壁や床をはがす作業をしました。泥がいかに厄介なものか、作業をやってみて初めて知りました。泥の細かい粒子は、いったん木目に詰まると、そう簡単には落ちてくれません。全壊していなくても、この泥の処置をしつかりやるのかどうかで、後のお家の状態も変わってくると聞きました。

**坂岡** 被災された方たちは、災害をきつかけに、住み慣れた家をどうするのか、という大きな決断を迫られるわけですね。特に半壊や一部損壊の方たちにとっては、全壊の方とはまた違った悩みがあるということでしょうか。

**武山** 私たちは、キリスト教系のグループでボランティアをしていたので、作業前と作業後に、輪になって祈りました。東日本大震災のときに、宗教団体がボランティア活動と称した「布教」をして、被災者の気持ちを傷つけたことがあったようです。でも、クリスチャンとしてこの活動に加わる時、やはり私たちは、祈りをもって作業を始め、祈りをもって作業を終えたかった。もちろん、そのお宅のお許しをいただいていたことです。

**坂岡** それは少しわかるような気がします。私も千曲川が氾濫した長野市で、土砂を土嚢につめるボランティアをしました。社会福祉協議会が募集するボランティアに単独参加したのですが、被災地の現状を目の当たりにすると、自分がいかに小さく弱い存在であるかを思い知らされます。こんな弱い役立たずの私が、被災した方の悲しみを深めたり、じゃまをしたり



ボランティアに行った人

からしだねセンター 武山世里子  
からしだねワークス 坂岡 恵

することがないように、また、神様が被災して途方にくれている方々を守り助けてくださるように、一人でそっと祈らずにはいられますでした。

**武山** 私達が作業の後で祈ろうとすると、そのお宅の方が私たちの輪の中に入ってきてくださったことが何回もありました。そして、ぼろぼろと泣かれるのです。私も一緒に泣いてしまいました。

**坂岡** 祈りにはなぐさめがありますね。「あなたのことを思っています」と真正面から言われても、ちよつと受け止めがたい。でも、相手が、人を超えた存在に向かって発した言葉の中に、自分のことを大切に思ってくれている気持ちが込められていたら、それはとても真実に近いと感じるのではないのでしょうか。

**武山** そうですね。ただ、行為が伴わない祈りは、かえって人を不快にさせるような気がします。ボランティア活動と称した「布教」のように。真備では、どこの建築屋のおっちゃんかと思っていた人が、作業が終わって、どろどろの顔のまま祈り始めた牧師だったということがわかって、そのお祈りに涙を流している被災者の方を見た時に、行為の伴う祈りこそ、人の心を溶かすということを知りました。もちろん、どれだけたくさんの行為をしたかという成果主義ではなく、どれだけ心をこめてやったかということなのです。

## 災害時の ソーシャルワーク

**坂岡** それで、今年もまた、大きな台風がきました。真備町でみた景色が、東北、関東、中部の広範囲にわたって起きてしまいました。

**武山** 私は千葉県館山市と長野市に行きました。長野では台風19号が上陸した直後に、オペレーション・ブレッシング・ジャパン (OBI) 国際的な人道支援 NGO (日本支部) の災害支援の一員という位置づけで被災地入りしました。まだボランティアセンターも立ち上がっていない状況下、とりあえず、ある団地に入ってみたのですが、そこで一人の男性が、家の前に立ち尽くしている。「どうされたのですか？」と聞くと、鍵が開かなくて困っているとのこと。手の震えや声の調子から、なんらかの精神障害を患っているかと思いました。私が鍵をお借りして回してみたら、簡単に開いてしまいました。もう何時間もそうやって家の前で困っていたとのことでした。

**坂岡** 武山さんは、ソーシャルワーカーとして、京都で障害のある方の生活の相談支援をしていますが、その経験は役にたちましたか？

**武山** 一緒に入った OBI 職員の方は、機材を駆使しながら、災害現場の壊れた家屋や家財、倒木などを処理していく専門家なのですが、そういう「ガンガン作業します」系の団体から見ると、私の動きはとても新鮮に映ったようです。

**坂岡** どんな動きをしたのですか？

**武山** 京都でやっているのと変わりのない動きです。なので逆に、驚かれたことが不思議なくらいでした。身についた習性というか、困っている人のかき分け (笑)、声をかける。話の内容、話し方表情、目や体の動きなどを見ながら、困っておら

れることの正体は何なのかを確認しつつ返していく。それからその方が、困りごとも含めて、これからどうしたいのか希望をお聞きする。その場で解決できそうなことは、解決の方向性を示し、地域の機関につないでいく。

**坂岡** なるほど。まさにソーシャルワーカーしてたんですね。(笑)

**武山** 先ほどの男性は、アルコール依存症であること、糖尿病を患っているのに、台風が

来てからインスリン注射ができ

ていないこと、生活

保護で、今使え

るお金が手元に

ないことなど、福

祉や医療のニーズ

が見えてとれました。



## 「ガンガン作業します」系と 「ストーリー読み解きます」系 のコラボ

**坂岡** 鍵が開かないことの立ち話から、そういうことをひきだした。そんな武山さんを見た「ガンガン作業します」系の方は？

**武山** はい。「ガンガン作業します」系としては、今までなかった視点だったようです。屋根が壊れるとか水に浸かるということとは、見た目にとてもわかりやすく、修理はできます。でも、そこで終わってしまう。本当はその先に、というか、その奥にというか、もっと日常的な困りごとや、

その人なりの大切なストーリーがかくれています。その人が大切にしてきたもの、思い出、価値観、習慣、家族や友人、好きな食べ物、趣味…。災害にあつてしまったからこそ、そこを軸にしてこれからの生活を考えていかないといいけない。それがその人のストーリーです。

**坂岡** 台風で飛んだ屋根をなおすことは、もちろん差し迫って大切。でも、被災前に確かにあった生活と、屋根が飛んで困っている現在、そしてこれから築いていく未来の生活、この三つの時間をつなげてその人のストーリーを読み解く役割が必要、それがソーシャルワーク、ということでしょう。

**武山** はい。「ガンガン作業します」系としては、せっかくな「ガンガン作業します」で入るなら、「ストーリー読み解きます」系も一緒に来て来いと。そうしたら、きつと被災された方の真の必要に届く、すごく良い動きができるのではないかとおっしゃるわけです。

**坂岡** なるほど。それは、逆に私達、福祉の側が見過ぎていたというか、気がつかなかったというか、気づかされたというか、「ガンガン作業します」系に教えていただいた視点ですね。

**武山** そうなんです。私は、真備で、鼻の穴まで真っ黒にして作業しましたが、そのとき被災された方の心がとけた瞬間があつたように思います。鼻の穴が真っ黒の私だからこそ、心を開いてくださった。休憩時間にその人のストーリーをいっぱい聞かせてくださいました。そして作業の後の折りの輪に加わってくださいました。



## 市民レベルの ソーシャルワーク



**武山** とは言え、私はよそからきたソーシャルワーカーです。目の前にいる被災した人を、ずっと見ていくことができるわけではありません。でも、被災した人の現在を受け止め、必要を見極め、希望を聞き、その方にとって必要な現地のいろいろな人や機関、いわゆる「社会資源」がどこにあるのかを判断して、つなげていくことはできます。

**坂岡** なるほど。もちろん、よそから来ているわけですから、わからないこともいっぱいありますよね。でも、とりあえず困っておられる状態を放置せずに、次につなげる役割はできますね。実際被災地では、行政も福祉関係者も、みんな日常業務に加えて、自分の事務所の立て直しと、被災した人達からの新たな要請が仕事として増えるわけです。苛立った利用者から怒鳴られたりすることもあり、みなさん疲労困憊だと聞いています。

**武山** アウトリーチ（積極的に出て行って、被災者の問題に働きかけること）まで、なかなか手が回らないというのが現実だと思います。

だから、そのアウトリーチの部分を、外からきたソーシャルワーカーが、「ガンガン作業します」系と一緒に動きながら、担っていく。行政や福祉関係者にふらなくてもよい人の困りごとを選び分けて、法律家、地域のボランティア、様々な業者、近所の人や親族に、「この方の、この部分を助けてあげてください」と負担にならないよう気をつけながらお願いする。

**坂岡** なんでもかんでも行政や福祉関係者に流れてしまう現状を食い止めて、他に振り分けていくのも、外

からきたソーシャルワーカーの役割ということですね。

**武山** はい。そして、それはなにも、社会福祉士や精神保健福祉士でなくとも、ノウハウさえあれば、ある程度のところまでは、市民レベルでできるのではないかと思います。

**坂岡** 市民レベルで？

**武山** 実際の被災地では、たとえばわりあいお元気だった高齢者が、屋根から雨漏りのするカビのはえた家でふるえておられたということがありました。あきらかに以前よりも、健康が優れず、受け答えもうまくできなくなっている。そういう場合、どこに相談すればよいのか、けっこう誰も知らないんです。

**坂岡** ええ？そんなんですか？答えは、地域包括支援センターでしょう？

**武山** はい。でも、地域包括支援センターは介護保険のことだけやってるところだと思っている高齢者がたくさんおられたということで、被災後のある地域で「地域包括支援センターとは何をするところ？」というテーマの勉強会をすることになったそうです。

**坂岡** たしかに、福祉のサービスって、自分と家族に必要が生じない限り、どんな仕組みになっているのか、みんな知らないかもしれません。

**武山** だから、市民レベルで、いざという時のために、どんな社会資源があつて、そこを何をしているところなのかを知っておくというだけでも、お隣さんを助け、行政や福祉関係者の負担を軽くして、専門職には専門職にしかできない必要な支援に集中してもらう、そんな手助けになると思い



## 発災直後の ソーシャルワーカー

ます。  
**坂岡** 地域の避難訓練や防災訓練と一緒に、そういう勉強会もあつていいかもしれませんね。

**坂岡** 最後にお聞きしたいのですが、武山さんは、これからどのように被災地に関わっていききたいと思えますか？

**武山** できれば、発災直後の被災地で働けたらいいと思います。ソーシャルワーカーは、常日頃から、当事者のニーズを探り、見極め、支援を組み立てて、しかるべきところにしないで行く仕事をしています。日頃はそうして体を温めながら地域でお仕事をする。発災時には、被災地に飛んで行って、いろいろなことが十分に機能していないなかで、ニーズの高いところをどこか、優先順位を決めて道筋を作っていく、そんな発災直後のソーシャルワークができるワーカーになりたいと思います。

**坂岡** 発災直後というと、まだまだ危険なことも多いと思います。体力や危険察知の能力、訓練も必要ですね。

**武山** そういう方面では、「ガンガン作業します」系の方に、ガンガン指導していただきたいと思っています。（笑）

**坂岡** なんだか不思議な気がするのですが、つまり、「行かなあかんような気がする」から、わけもわからず飛び出していた真備町での体験。そして、それがいつのまにか「発災直後のソーシャルワーカー」につながっている。武山さんにも、すごいストーリーができつつありますね。とても楽しみです。



支援に関わる人達の行動規範として基本的なものに、「バイステックの7原則」があります。

今回は、第1の原則「個別化の原則（人は皆、違う。支援も一人ひとり違う）」についてからしだねワークスでは、どのように取り組んでいるかをお知らせしたいと思います。

からしだねワークスでは、「仕事に取り組むまじめな意識」を、統一して大切にさせていただくように気をつけています。

そのうえで、一人ひとりへの声のかけ方も、励ますタイミングも、注意してほしいことの伝え方も、変わってきます。ワークスの利用者さんは、まさに「個別」。一人ひとりとても個性的です。ワークスに来て、就労支援を受けるようになるまでの経緯も、育った家庭環境も、病気や障がいの出方も、全く違います。作業の速度も、得意なこと苦手なことも違います。また、お一人お一人が抱えておられる個人的なしんどさを職員にだけ教えてくださることもあります。それは、プライバシーにかかわる個人情報として、漏えいしないように気をつけたいといけません。

時々、利用者さんから「なんで、あの人には注意しないのに、私にだけ注意するんですか？」と聞かれることがあります。そのようなときは、一人ひとり違うこと、その違いを詳しく説明できないこともあること、そして「あなたの目標は何でしたか？あなたはあなただけの目標や希望に向かってがんばってください」とお伝えするようにしています。

## 今日の頃 （就労継続支援 A型・B型）

からしだねセンターでは、病気や障がいによって、家事ができない、病院や役所に一人で行けない、経済的に困っている、仕事続かない、育児が十分にできない・・・といった相談に、医療や福祉の制度・サービスを調整し、その方の暮らしが前に進んでいくように支援しています。しかし最近「こんなことが大切な支援になるんだ」と思ったことがありますので、シェアしたいと思います。



A子さんは、こころの病気と付き合いながら、就労継続支援B型事業所で仕事をしておられるまじめな女性です。心をこめて取り組んだお仕事でお客様が喜んでくださる、それが何よりのやりがいになっています。けれども最近は体調が悪く、仕事を休みがちになりました。「仕事を休むと、普段できていることもできなくなる・・・お医者さんにも相談しているのに全然よくならず・・・」とポロポロ涙を流して苦しみを訴えられました。二人でどうすればよいのか考え、こんな結論を出しました。

作業に休まず来ることができたら、事業所のB子さん（A子さんが信頼している女性職員）と「今日も作業に来れた！」と喜びあってハグをする、ということです。

A子さんはさっそく、次の作業からそれを実践しました。今までは「作業を休んでしまわないか」そればかりに気持ちがいてしまい、余計不安になっていたようです。それがハグを通して「行けることが嬉しい」に切り替えることができ、「行けないしんどさ」がましになったと話しておられました。

しっかり話をし、一緒にできることを考える、この「対話」が、何よりも大切な支援だと実感した出来事でした。

## 今日の頃 （就労継続支援 A型・B型）

| 科目                              | 決算(B)       |
|---------------------------------|-------------|
| 就労支援事業収入                        | 23,608,046  |
| 障害福祉サービス等事業収入                   | 82,078,288  |
| 借入金利息補助金収入                      | 262,480     |
| 経常経費寄附金収入                       | 1,796,495   |
| 受取利息配当金収入                       | 412         |
| その他の収入                          | 46,100      |
| 事業活動収入計(1)                      | 107,791,821 |
| 人件費                             | 65,614,927  |
| 事業費支出                           | 3,452,537   |
| 事務費支出                           | 13,968,094  |
| 就労支援事業支出                        | 25,545,045  |
| 利用者負担軽減額                        | 111,600     |
| 支払利息支出                          | 286,780     |
| 事業活動支出計(2)                      | 108,978,983 |
| 事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)           | -1,187,162  |
| 施設整備等補助金収入                      | 200,000     |
| 施設整備等収入計(4)                     | 200,000     |
| 設備資金借入金元金償還支出                   | 2,470,000   |
| 固定資産取得支出                        | 560,520     |
| 施設整備等支出計(5)                     | 3,030,520   |
| 施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)          | -2,830,520  |
| 当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10) | -4,017,682  |
| 前期末支払資金残高(12)                   | 48,104,871  |
| 当期末支払資金残高(11)+(12)              | 44,087,189  |

| 科目                                 | 当年度決算       |
|------------------------------------|-------------|
| 就労支援事業収益                           | 23,608,046  |
| 障害福祉サービス等事業収益                      | 82,078,288  |
| 経常経費寄附金収益                          | 1,796,495   |
| サービス活動収益計(1)                       | 107,482,829 |
| 人件費                                | 65,614,927  |
| 事業費                                | 3,452,537   |
| 事務費                                | 13,968,094  |
| 就労支援事業費用                           | 25,908,787  |
| 利用者負担軽減額                           | 111,600     |
| 減価償却費                              | 4,435,777   |
| 国庫補助金等特別積立金取崩額                     | -2,034,932  |
| サービス活動費用計(2)                       | 111,456,790 |
| サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)              | -3,973,961  |
| 借入金利息補助金収益                         | 262,480     |
| 受取利息配当金収益                          | 412         |
| その他のサービス活動外収益                      | 46,100      |
| サービス活動外収益計(4)                      | 308,992     |
| 支払利息                               | 286,780     |
| サービス活動外費用計(5)                      | 286,780     |
| サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)             | 22,212      |
| 経常増減差額(7)=(3)+(6)                  | -3,951,749  |
| 施設整備等補助金収益                         | 200,000     |
| 特別収益計(8)                           | 200,000     |
| 固定資産売却損・処分損                        | 1           |
| 国庫補助金等特別積立金積立額                     | 200,000     |
| 特別費用計(9)                           | 200,001     |
| 特別増減差額(10)=(8)-(9)                 | -1          |
| 当期活動増減差額(11)=(7)+(10)              | -3,951,750  |
| 前期繰越活動増減差額(12)                     | 45,680,162  |
| 当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)          | 41,728,412  |
| 次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16) | 41,728,412  |

| 科目名         | 当年度末        |
|-------------|-------------|
| 流動資産        | 50,358,703  |
| 固定資産        | 108,958,407 |
| 基本財産        | 106,148,418 |
| その他の固定資産    | 2,809,989   |
| 資産の部合計      | 159,317,110 |
| 流動負債        | 8,741,514   |
| 固定負債        | 12,120,000  |
| 負債の部合計      | 20,861,514  |
| 基本金         | 60,768,000  |
| 国庫補助金等特別積立金 | 35,959,184  |
| その他の積立金     | -           |
| 次期繰越活動増減差額  | 41,728,412  |
| 純資産の部合計     | 138,455,596 |
| 負債及び純資産の部合計 | 159,317,110 |



Merry  
CHRISTMAS  
&  
HAPPY NEW YEAR  
HAPPY.....

2019年ありがとうございました。  
2020年よろしくお願いたします!!